

## 成果の説明書

(氏名) 野崎謙二	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ ヴロツワフ経済大学との共同出版プロジェクトの成果物である <i>Current Trends in the Global Economy: From the Perspective of Japanese and Polish Economists</i> (編集 : Boguslawa Drelich-Skulaska, Mami Hiraike Okawara) の第 5 章に論文 “Production Network of Automobile Industry in the Greater Mekong Sub-region: Comparison to Europe” を執筆した(pp.133-147)。</li><li>・ 本学地域科学研究所研究プロジェクト「地方都市における中小製造業の存立基盤に関する研究」の成果物である『地方製造業の躍進：高崎発ものづくりのグローバル展開』の「第 8 章 ベトナム経済・タイ経済の現況と日系企業の活動状況」を共著(執筆担当 160-170 頁)で、「第 14 章 タイの自動車産業を素材で支える：群栄化学工業株式会社」を単著(283-306 頁)で執筆した。</li><li>・ 愛知学院大学論叢『経済学研究』第 9 巻、第 1 号(多和田眞教授退職記念号)に論文の投稿を依頼され、「東アジアにおける自動車部品の調達構造に関する研究」を執筆した(1-18 頁)。</li></ul>	
<p>2 その他の事項</p> <p>(1) 学会活動等</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 日本地域学会理事として、学会の運営に貢献した。</li></ul> <p>(2) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、学生を引率しての海外フィールドワークが実施できない状況が続いたため、それに代替する方法として、ブータン政府より学位取得のために日本に派遣されている留学生に本学に来てもらい、2, 3 年生の演習で講義、意見交換を行ってもらった。</li><li>・ ゼミ生の 2, 3 年有志で構成されたグループが実施した、ASEAN 域内の自動車生産拠点の変容に関する研究が、経済学部経済学会主催「学生懸賞論文」で銀賞を受賞した。その他、一帯一路における債務の罠からの脱出(2, 3 年有志)、ラオスの初等教育 1 年次の留年・退学を招く要因の考察に関する研究(4 年)がそれぞれ佳作を受賞した。</li></ul>	
<p>3 次年度以降の計画・抱負</p> <p>(1) 教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学部長の業務に時間を取られることが原因で、学生の研究活動や就活支援が疎かにならないよう、可能な限り時間を確保する。特にゼミ生とのコミュニケーションを密に取るようにしたい。</li><li>・ 今年度も海外フィールドワークで実際に現地を訪問することは難しいため、本学協定校のメーファールアン大学の担当者とも相談して、学生交流、共同作業を含めたオンライン・フィールドワークを企画している。</li></ul> <p>(2) 研究活動</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学部長としての業務や教育活動に支障が生じることのないよう、研究活動は引き続</li></ul>	

き断念することとしたい。